

於成はあてさき **あつ** ぐですみませんが、久光書状の宛先となった四人の娘たちのうち、入来いりき院家いんに嫁とついでいた於珍おときと、喜入家きいれに嫁とついでいた於寛おひろが、五月から七月にかけて、相次あいついで発症し、まもなく亡くなっています。また、於治おはるの夫の島津久静ひさなが（都みやこのじよつ城島津家当主）は、参府する久光の代理として、禁裏・京都警備にあたるため、五月初めに鹿兒島を発たち、二十日に京都藩邸で久光に面会しましたが、まもなく体調不良を訴え、二十三日に麻疹との診断を受けます。そして、二十六日には、治療のまいなく、伏見屋敷で亡くなりました。さらに、遡さかのぼること四月には、芳之進（久光八男）が急死するという出来事もありました。

ぶんきゆう 文久の幕政改革を成し遂げ、中央政界に華々しくデビューした久光でしたが、その影には、愛する子どもたちを相次いで失うという深い悲しみがあつたのです。

企画展「あの人の家族への手紙 幕末維新」は6月7日（日）までの開催です。是非お越しください。

なお、企画展担当学芸員による「島津久光書状案」と「於成消息」の解説動画が近日公開予定です。公開されましたら、おうちミュージアムの「見る」の項目（現在準備中）にリンクをはりますので、そちらも是非ご覧ください。